



## 【噴水池の生物調査～環境モニタリング～】 実施報告

○開催日時：平成 26 年 5 月 18 日（日） 10：00～12：00

○参加者：京都市立高野中学校 生徒 7 名，引率 2 名  
樟蔭高等学校 生徒 5 名，引率 1 名  
京都水族館 3 名  
京都自然教室 9 名  
京都精華大学 8 名  
京都市動物園 11 名 計 46 名

### ○活動内容

京都市動物園は明治 36 年の開園当初から園内に池があり、「噴水池」と呼ばれている。

この噴水池は琵琶湖の水を取り込んでいることから、琵琶湖水系の生物が流入、定着している生物も多くいると推測される。また、琵琶湖淀川水系以西に分布し、絶滅危惧種に指定されているイチモンジタナゴの個体群が、動物園と同じ水系である平安神宮神苑内で見つかっており、地域内の自然について、身近な環境を通して学べる良いフィールドになる。本講座では、噴水池内の生物調査を通して、現状の生物相を把握するとともに、今後の環境変化を継続的に調査していくための基礎データ作りを目的とする。

実際に生物調査を体験することで、見聞きするだけでは分からない調査のやり方や道具類の扱い方を学ぶとともに、自らが行動して得られたデータの科学的な分析を通して、より良い環境を維持するための、あるいは遺伝子のかく乱という生態系被害をおこさないホタルの復活などについても考えてい。そして、事後学習では、噴水池をビオトープとして整備し、地域の環境保全の取り組みを促進し、子どもたちには生き物とのふれあいを通じて自然を守る意識を育てられる場となるような企画立案も行う。

まずは、調査地である「噴水池」に集合します。今回の調査は、ビオトープとして活用するための浚渫工事を行うこともあり、「池干し」の状態での調査となりました。



そして、講座担当者からプログラムの主旨・プログラムの流れ及び注意事項を説明し、参加者を紹介しました。



まずは、京都水族館 淡水担当の方々に魚類採取のデモンストレーションを行っていただきました。初めてみる作業に歓声が上がります。



次いで、いよいよ参加者による実践です。







時間を追うごとに魚類採取が様になっていきました。

次は泥の中から生物を採取する方法を京都自然教室の方々から学び、実践します。







その間、京都水族館と動物園のスタッフで魚類を種類ごとに分け、採取された魚類について、京都水族館の関さんに解説していただきました。







～ここで、いったんお昼休憩です～

午後は魚以外の採取された生物について、京都自然教室の八木さんから解説していただきました。



最後は、採取された生物の最小・最大サイズの計測とカウントです。





これで、噴水池の生物調査は終了としました。このデータをもとに、今後の生物相の変化、生物多様性の保全の取組に活かしていきたいと思います。

最後に、今後整備を予定している「京都の森」の棚田やホテルの定着を目指す水路について説明し、事後学習の取り組みに繋げて、本講座を終了としました。

地域の連携や多くのスタッフに恵まれ、良い講座が出来たのではないかと思います。

今後は、新たな環境教育のフィールドとなる噴水池の活用を検討していくこととします。御興味のある方は、是非企画をお寄せ下さい。

京都市動物園 生き物・学び・研究センター

Tel: 075-771-0210 (代)

mail: ikimonomanabi@city.kyoto.jp



生き物・学び・研究センター  
課長補佐 和田晴太郎